

雪嶺集

〈宮坂静生 鑑〉



草の花

小林 貴子

奥信濃雁木にくくる草の花
萩くくる暇もあらで時は去る
正受庵伸びつつ一位実をさはに
棗の実褐色もまた炎ゆる色
雨打つかに歪む硝子や蔦紅葉
紅葉川なに鳥の巢かもじやもと
重陽の軸拝見と膝行す
生れたての嬰の弓なり竹の春
神戸港じやがたらみかん下ろしをり（朱欒）
ナイターのマウンドを去るしづごころ（能見投手引退）